

社会技術研究開発について

平成29年4月



Japan Science and Technology Agency

科学技術振興機構（JST）のご紹介

年間総予算額 1,019億円

1. 研究開発事業

新規採択プロジェクト 約800件
研究開発予算 約770億円

基礎研究

産学連携研究

国際的な科学技術協力

新規「未来社会創造事業」

- 戦略的創造研究推進事業 (CREST・さきがけ・ERATO・ALCA RISTEX) 等

- 研究成果展開事業 (A-STEP、先端計測、COI)
- 知財活用支援事業 等

- 国際科学技術共同研究推進事業 等

2. 科学技術イノベーション創出の基盤形成

知識インフラの整備・提供

科学技術論文抄録の発行

人材インフラの整備

- スーパーサイエンスハイスクール
- 国際科学技術コンテスト支援
- 研究人材キャリア情報活用支援 等

科学コミュニケーション

- 日本科学未来館 等



科学技術イノベーション創出

社会技術研究開発推進の契機

1999（平成11）年6月『世界科学会議』（UNESCO・ICSU共催、ハンガリー・ブダペスト）

「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言（ブダペスト宣言）」

「知識のための科学」に加えて、「平和のための科学」、「開発のための科学」、「社会のなかの科学・社会のための科学」を推進

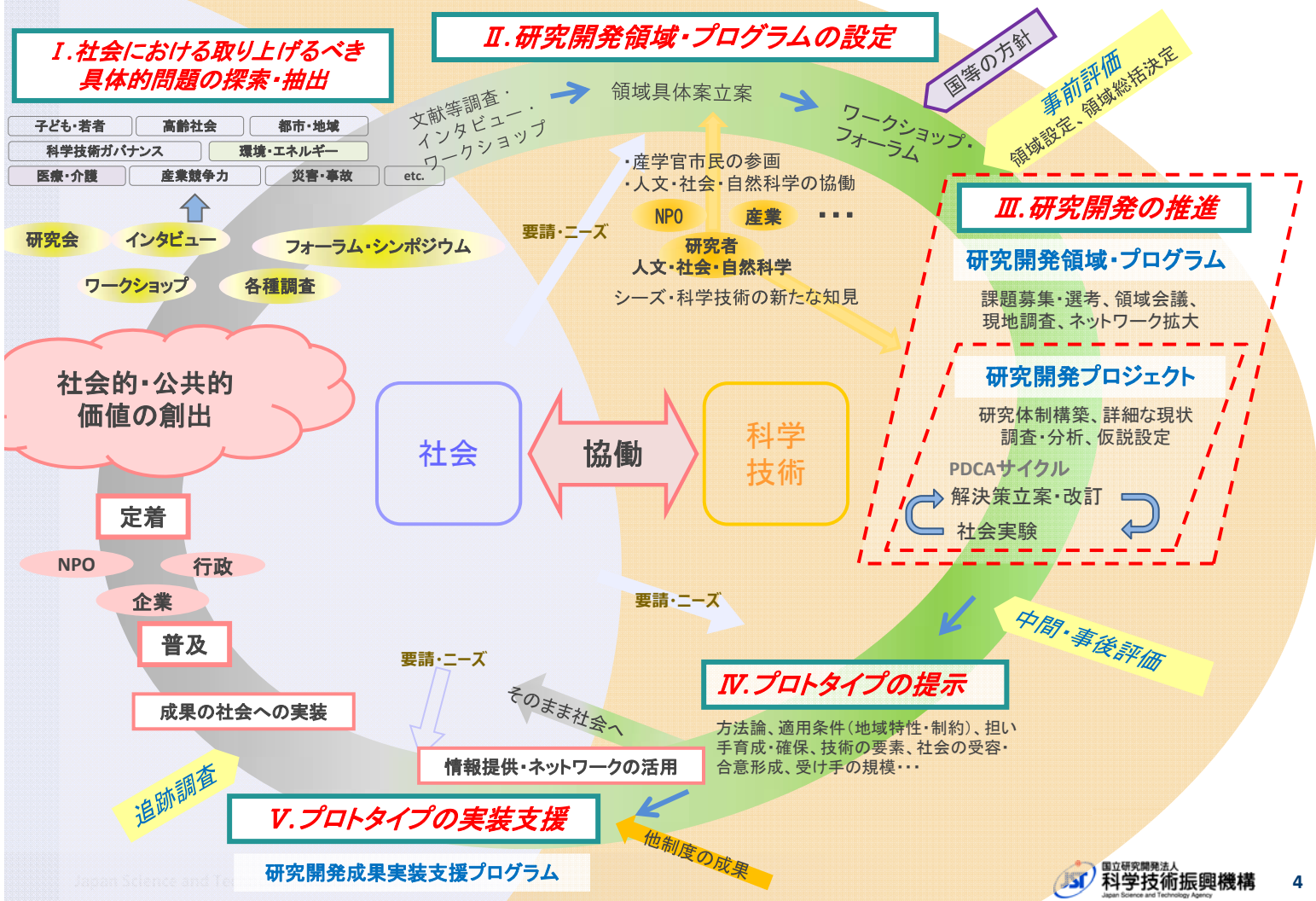
2000（平成12）年4月 科学技術庁「社会技術の研究開発の進め方に関する研究会」（座長：吉川弘之・日本学術会議会長〈当時〉）

- 「社会の問題の解決を目指す技術」
- 「自然科学と人文・社会科学との融合による技術」
- 「市場メカニズムが作用しにくい技術」

社会技術とは（RISTEXパンフレットに記載）

『「自然科学と人文・社会科学の複数領域の知見を統合して新たな社会システムを構築していくための技術」であり、社会を直接の対象とし、社会において現在存在しあるいは将来起きることが予想される問題の解決を目指す技術。』

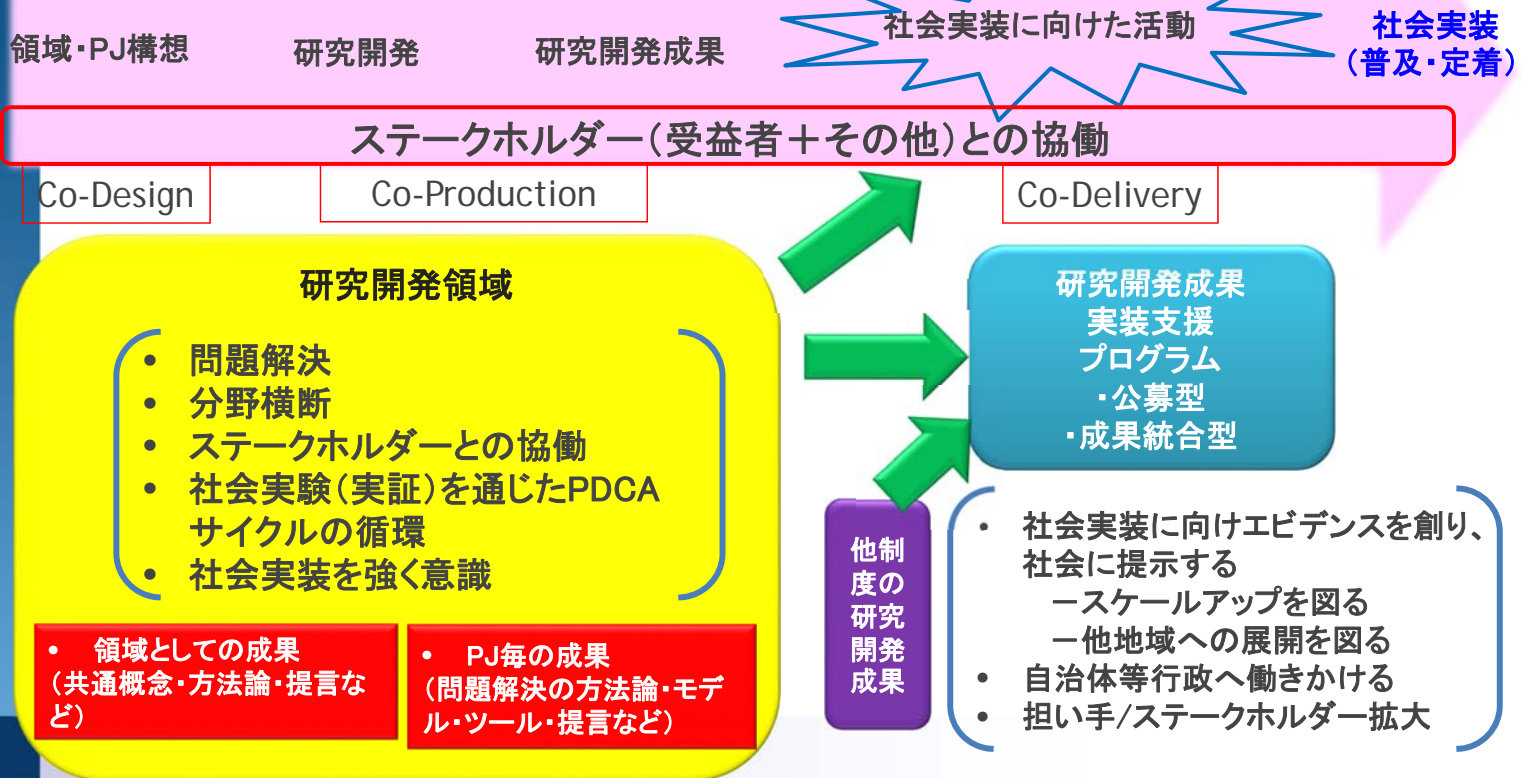
Japan Science and Technology Agency



社会技術研究開発センターの重視する研究開発

社会実装を意識した問題解決型研究開発の推進

ステークホルダーと早期に協働することで成果の質的向上、
社会実装への確からしさが向上する！



RISTEXの研究開発

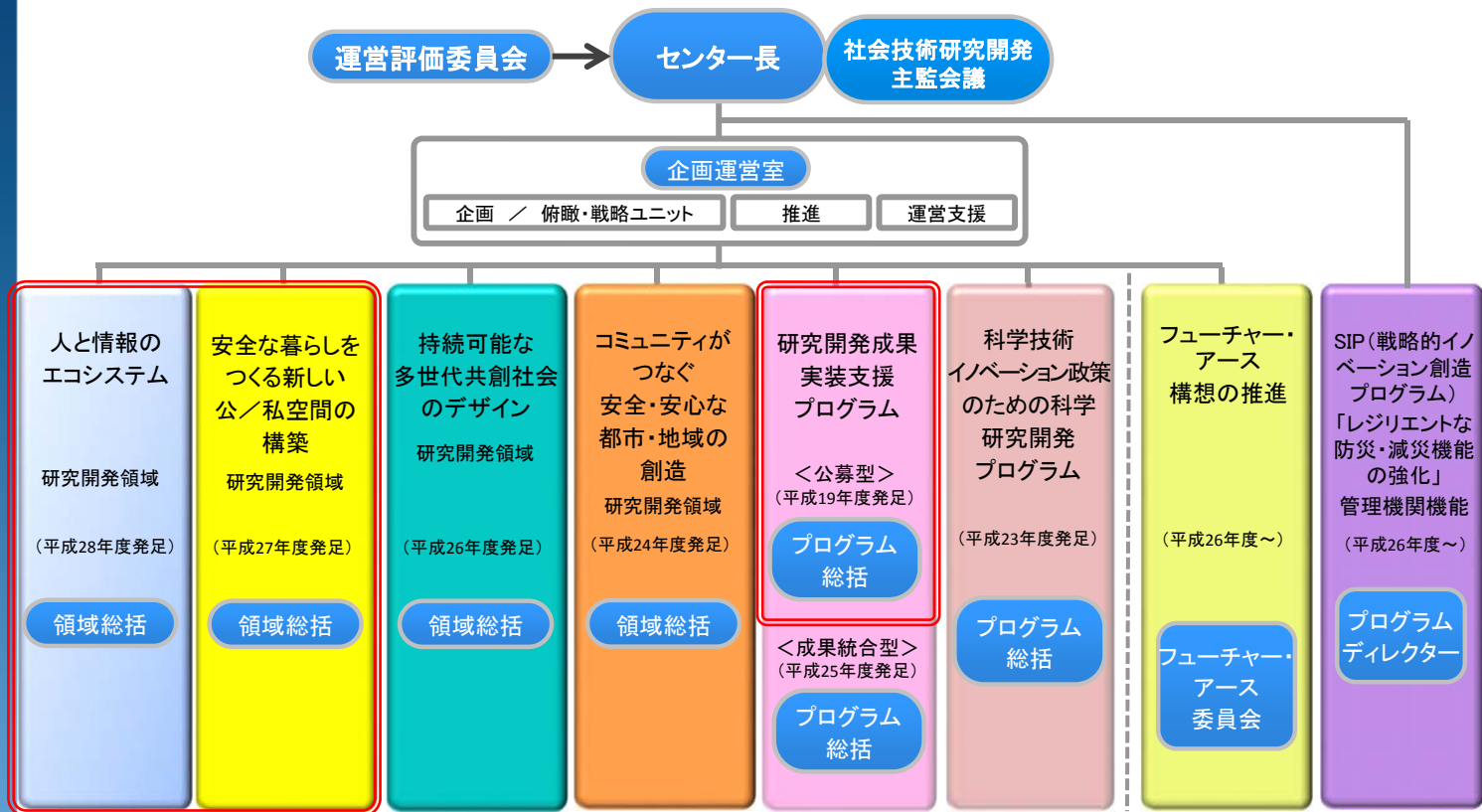
- アカデミックな科学者共同体内部で完結するような研究への支援ではない。
- 技術上のイノベーションの開発研究への支援でもない。
- 企業の市場調査的な研究への支援でもない。
- NPOの活動への支援でもない。

しかし、それらのすべてが関与者になり得る。

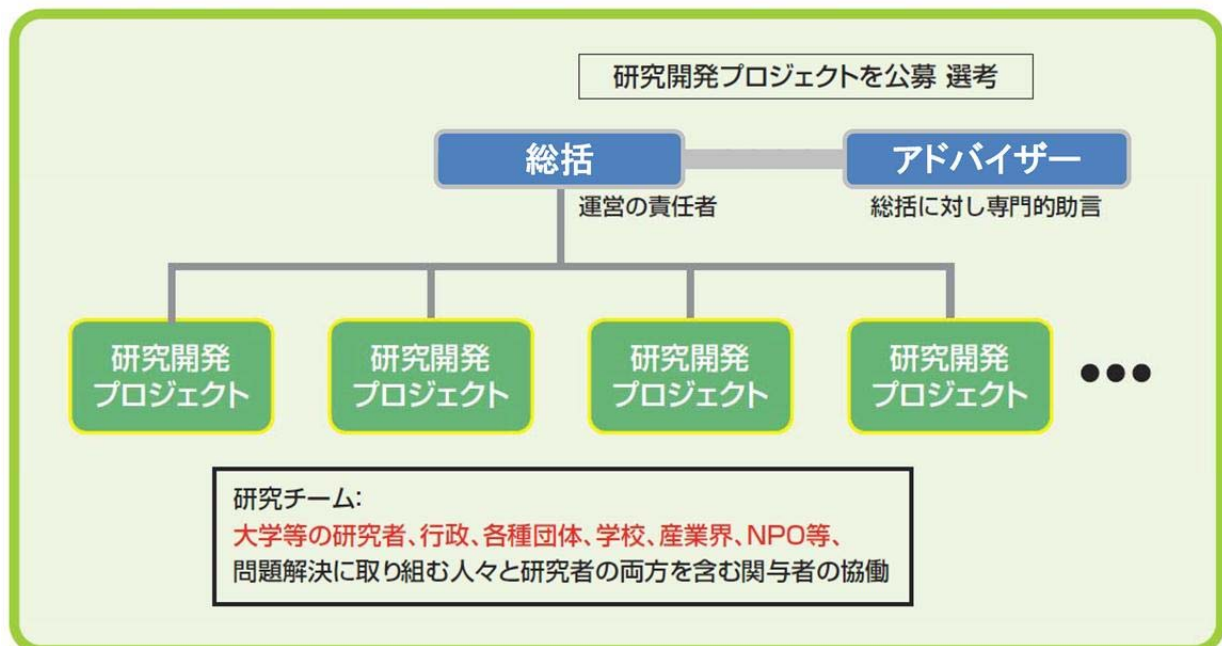
一般の市民、教育機関、メディア、産業・企業、行政、法制、そして科学者共同体に携わる人々のすべて、或いはその一部を巻き込んだ、社会システムのイノベーションを目指す研究をこそ、支援したい。

「科学技術と人間」研究開発領域 領域総括 村上 陽一郎 先生
「科学技術と社会の相互作用プログラム」(平成19～24年度)
公募時のポイントより。

社会技術研究開発センター運営体制



研究開発領域・プログラムの運営体制



- 研究開発プロジェクト(課題)の募集・選考、領域会議、サイトビジット(現地視察)、領域全体会議(研究開発実施者を含む合宿)等 の実施
- 必要に応じ、研究開発プロジェクトの計画変更、統廃合も実施
- アウトリーチ活動、外部関与者との人的ネットワークの構築